

## 体験型観光からみる主要観光施設に関する研究

1230424 大西 響

指導教員 金 東勲

### 研究背景

新型コロナウイルスを契機に新しい生活様式が求められたように観光形態にも変化がみられた。多くある観光形態の中で、体験型観光に着目し、現在の主要観光地の観光資源、観光の体験の観点から今後の観光について考える。

### 研究目的

本研究は、観光地を事例として取り上げ、観光資源の分類及び体験型コンテンツの有無から体験型観光としての分析、考察を行う事を目的とした。

### 研究方法

分析方法として、事例を用いて比較検証を行った。高知県を主軸に考えつつ、四国の他の三県の主要観光地を観光資源、体験型コンテンツの有無から分析を行う。主要観光地として各県 15 か所の計 60 か所について検証した。

### 分析結果

高知県は、他の四国の各県と比べて自然資源の主要観光地が多く、体験型コンテンツとして考えられるものも多い。

### 考察・結論

高知県の主要観光施設は、他の四国県と異なり、自然資源の観光が多く、体験型コンテンツも充実している。しかし、他の四国の各県と比べると観光施設の来場者数は少ない。体験型観光として十分な素質があることから、施設ごとのインパクトを高めることで、各観光施設の来場者数、県内への誘客増加を克服することが出来るのではないだろうか。